

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	117人	社会	118人	数学	117人
	理科	118人	英語	118人		

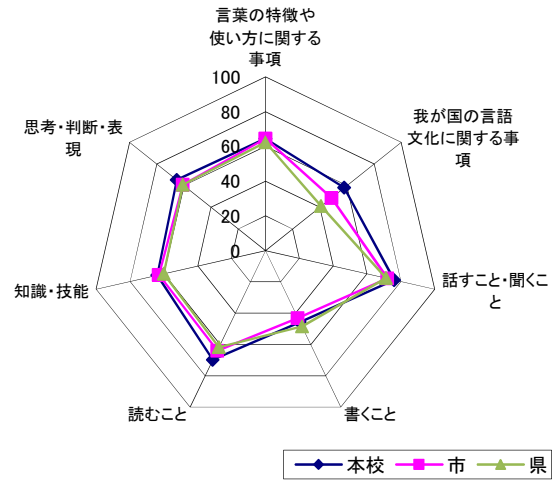
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.5	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	58.1	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	76.1	72.1	71.2
	書くこと	45.7	43.1	48.5
	読むこと	69.8	63.9	61.8
観点	知識・技能	63.9	62.9	60.1
	思考・判断・表現	65.3	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

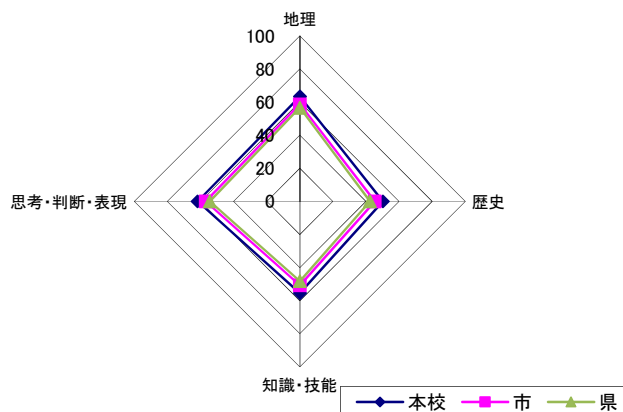
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率について、県平均に比べると+2.2ポイント、市平均とは同じポイントであった。</p> <p>○漢字の読みについて、全ての問題で県・市平均と同等もしくは上回った。</p> <p>○文節の関係について、県・市平均を上回った。</p> <p>●漢字の書きについて、県・市平均を大きく下回った問題があった。</p> <p>●敬語について、県平均を上回ったものの、市平均を下回った。</p>	<p>・漢字については、読み・書きにかかわらず、漢字テストを中心に継続的な指導を続けていく。また普段から学習した漢字を使用できるように指導していく。</p> <p>・文法事項については、系統的な指導が重要であり、一つ一つの事項が独立したものではなく、系統的なものであることが意識されるよう指導していく。</p> <p>・敬語については、小学校での既習事項を確認しながら、中学校での学習を進めていく。特に日常生活で使えるよう、場面設定を意識した問題演習を行う。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率について、県平均に比べると+17ポイント、市町平均に比べると+9.4ポイントであった。</p>	<p>・今回は現代仮名遣いに直す問題のみであったが、県平均や市平均を大きく上回る結果を残した。古典の学習機会は1年の中で限られた時間しかないため、復習を多く取り入れながら、生徒の理解度を高めていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率について、県平均に比べると+4.9ポイント、市町平均に比べると+4ポイントであった。</p> <p>○全ての問題において、県・市平均を上回った。</p>	<p>・本校では聞き取りのテストを定期的実施しているため、今後も継続して行っていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率について、県平均に比べると-2.8ポイント、市平均に比べると+2.6ポイントであった。</p> <p>●4つある条件のうち、3つの条件の記述について、県平均を下回った。特に6-4については県・市平均を下回った。</p>	<p>・授業の中では、文章の種類によってどのような書き方で書けばよいのか、モデルを参考にしながら書く活動を行っている。今後はより条件を明確に設定し、複数の条件を満たしつつ、自分の考えを書くことができるよう指導していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率について、県平均に比べると+8ポイント、市町平均に比べると+5.9ポイントであった。</p> <p>○ほとんどの問題において、県・市平均を上回った。</p> <p>●一部の問題で市平均を下回るものがあった。</p>	<p>・全体的に高い正答率であったが、問題によっては平均を下回るものもあった。文章の構成や展開を明確にとらえるために必要なスキルを伸ばす指導を行っていく。</p>

宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	63.3	58.7	56.6
	歴史	50.2	45.4	42.4
観点	知識・技能	55.4	50.7	48.2
	思考・判断・表現	61.7	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

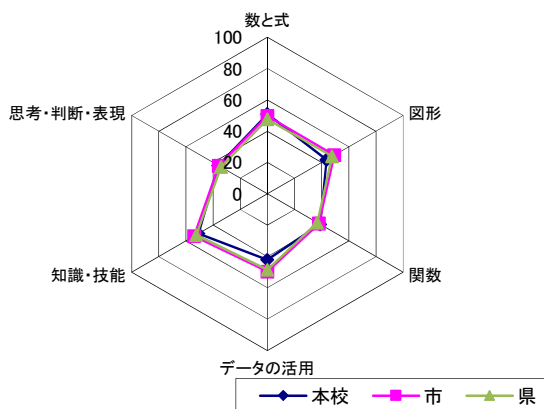
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率について、県平均に比べると+6.7ポイント、市平均に比べると+4.6ポイントであった。</p> <p>○六大陸と三大洋の名称と位置関係について理解しているかどうかをみる問題については、県平均を16.1ポイント、市平均を13.0ポイント上回った。</p> <p>○日本の領域の端の島々の位置や特色について理解しているかどうかをみる問題については、県平均を9.3ポイント、市平均を6.3ポイント上回った。</p> <p>○世界の各地域の人々の生活について、一単位時間の学習課題のまとめの内容を踏まえて考察し、単元の学習課題(問い)に対するまとめとして表現しているかどうかをみる問題については、県平均を8.2ポイント、市平均を5.2ポイント上回った。</p> <p>○アメリカ合衆国の農業の特色について、資料を基に考察しているかどうかをみる問題については、県平均を6.9ポイント、市平均を6.2ポイント上回った。</p> <p>○資料から、原油の国際価格の変化の特徴を読み取り、表現しているかどうかをみる問題については、県平均を9.1ポイント、市平均を7.0ポイント上回った。</p> <p>●様々な図法の地図の特徴とその読み取り方について理解しているかどうかをみる問題については、市平均を1.2ポイント下回った。</p>	<p>・地理的分野の学習においては、地球儀や地図帳を活用して、世界や日本の地域的特色を示す情報を示しながら地理的事象を理解させる。また地図帳の主題図から環境や多様な生活文化についてグローバル化の進展を地球規模でとらえさせる。</p> <p>・教科書の統計資料から、面積や人口、主な産業など地理的な情報を集め、選択して白地図や略地図などにまとめさせる作業を設け、世界や日本の地誌的内容を理解させる。</p> <p>・地図の種類と読み取り方については、その地図を利用する目的や実際に地図から方位や距離、面積を読み取る学習活動を設け、知識と技能力の向上を図っていく。</p>
歴史	<p>平均正答率について、県平均に比べると+7.8ポイント、市平均に比べると+4.8ポイントであった。</p> <p>○旧石器時代から縄文時代にかけての生活の変化について理解しているかどうかをみる問題については、県平均を10.1ポイント、市平均を8.7ポイント上回った。</p> <p>○複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、律令制下の負担に対し農民たちがとった行動について表現しているかどうかをみる問題については、県平均を12.1ポイント、市平均を7.8ポイント上回った。</p> <p>○古代から中世への社会的な変化について、複数の資料を関連付けて考察しているかどうかをみる問題については、県平均を11.7ポイント、市平均を9.4ポイント上回った。</p> <p>○室町時代の貿易と日本の社会や経済との関わりについて理解しているかどうかをみる問題については、県平均を17.7ポイント、市平均を14.8ポイント上回った。</p> <p>○中世に起こった戦いについて理解し、年代を判断しているかどうかをみる問題については、県平均を4.7ポイント、市平均を3.8ポイント上回った。</p> <p>●古代の日本(倭)の対外関係について理解しているかどうかをみる問題については、市平均を7.1ポイント下回った。</p>	<p>・歴史的分野の学習においては、小学校での既存の知識を踏まえながら、写真や復元図、映像など様々な資料を活用して、歴史的事象についての情報を読み取らせ、その時代における課題を主体的に追求、解決していこうとする力を身に付けさせる。</p> <p>・日本の古代においては、どのように国家が形成されたのかを、東アジアとの関わりと関連付けて考察し、時代の特徴をまとめさせるような学習活動を設けて理解を深めさせる。</p>

宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	50.9	49.7	47.6
	図形	43.6	49.2	47.7
	関数	38.9	38.0	36.8
	データの活用	42.1	49.6	48.5
観点	知識・技能	50.7	54.0	52.5
	思考・判断・表現	36.2	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

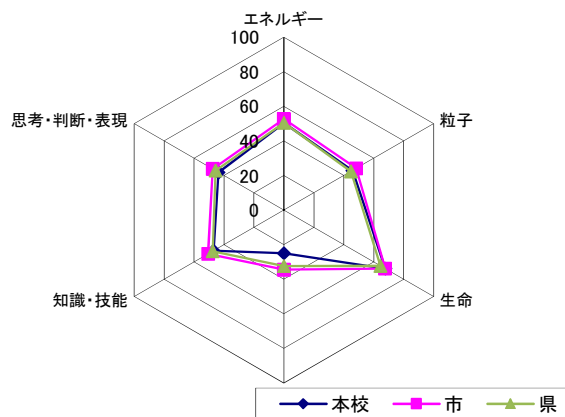
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率について、県平均と比べると+3.3ポイント、市平均と比べると+1.2ポイントであった。</p> <p>○正負の数、文字式、1次方程式の基本的な計算の正答率が、県・市の平均を上回っている。</p> <p>●1次方程式の計算で、係数に分数を含む計算問題や、文章から与えられた情報を読みとり、文字を用いた式で表す問題に課題が見られる。</p>	<p>・係数に分数や小数を含む計算問題について、繰り返し計算練習をするよう授業において時間を設けるとともに、個々の自主学习等で反復練習するよう指導し、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・文字を用いた式で表す問題では、規則のある問題を各学年で積極的に扱い、多くの問題に取り組ませることで、考え方を身に付けさせる。</p>
図形	<p>平均正答率について、県平均と比べると-4.1ポイント、市平均と比べると-5.6ポイントであった。</p> <p>○おうぎ形の面積を求める問題の正答率が、県・市平均を上回っている。</p> <p>●回転移動、平行移動をして重なる図形や、角の二等分線を用いた折り目の作図、切り取ってできた立体の体積、半球の表面積など、図形分野のほとんどが、県・市平均を下回っている。</p>	<p>・用語の確認や、基本の作図方法、立体の体積や表面積の求め方の定着のため、繰り返し問題に取り組ませる。</p> <p>・切り取ってできる立体について、実際に立体の模型を見せたり、デジタル教材を利用し、残った立体の体積を求めるためには、元々の立体と、切り取った立体が何で、その体積はどのように求めるのかについての手順をよく確認させる。</p>
関数	<p>平均正答率について、県平均と比べると+2.1ポイント、市平均と比べると+0.9ポイントであった。</p> <p>○変域のある比例のグラフについての問題や、与えられた情報から反比例を用いて式や答えを求める問題、動点の問題で、正答率が県・市の平均を上回っている。</p> <p>●会話文中の条件をもとに、比例の式を使ってyの値を求める問題で、県・市の平均を下回っている。</p>	<p>・比例の式からyの値を求める基本的な問題で課題が見られるため、関数の問題では、何をx、yとおいているのかをよく確認するよう指導していく。</p> <p>・平均は上回ったものの、変域のある比例のグラフについて説明する問題の正答率が非常に低いため、関数の単元において、変域を用いた問題を多く取り組ませ、変域を意識させていきたい。</p>
データの活用	<p>平均正答率について、県平均と比べると-6.4ポイント、市平均と比べると-7.5ポイントであった。</p> <p>○ヒストグラムから読み取った傾向をもとに、自分の考えを説明する問題で、県・市の平均を上回っている。</p> <p>●度数分布表から、累積度数を求めたり、相対度数を求める問題や、ヒストグラムについて「必ずいえること」を選ぶ問題で、県・市の平均を下回り、特に相対度数を求める問題では、市の平均を20ポイントほど下回っている。</p>	<p>・言葉の意味をよく理解していないという課題が見られる。基本的な用語や求め方について、丁寧に確認をしていく。</p>

宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	50.4	52.7	50.5
	粒子	45.7	48.3	44.9
	生命	67.7	67.6	64.4
	地球	24.9	34.4	32.3
観点	知識・技能	46.9	50.7	47.6
	思考・判断・表現	43.6	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

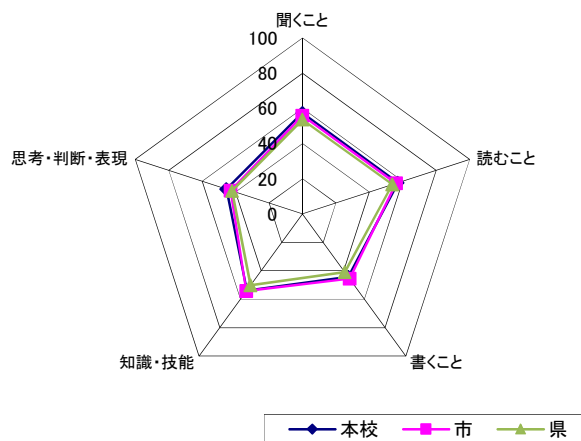
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○音についての理解が高く、ギター-の弦の太さと振動数、音の高さの関係についての問いの正答率が高かった。 ●光についての理解が低く、レンズを使用した作図の正答率が低かった。	・凸レンズを使用した実像、虚像の作図を重点的に行う。
粒子	○ほとんどの問において、市の平均と同程度の正答率である。特に、食塩水の濃度についての問いの正答率が高かった。 ●蒸留を行った結果についての問いの正答率が低かった。	・実験について、結果から考察できることをより丁寧に考えさせる。
生命	○葉の特徴から、植物の種類を特定したり、両生類とは虫類を分類したりと、知識を問われる問いに対する正答率が高かった。 ●花の形から、被子植物を類推したり、表から植物の分類について考察したりする、思考を要する問に対する正答率が低かった。	・生物の分類について、知識を身に付けるのみではなく、知識を活用した問いに取り組みさせる等、思考を要する活動を行う。
地球	○地震について、初期微動継続時間などの用語を答える問いの正答率が高かった。 ●火成岩のでき方を、時間的、空間的に説明したり、柱状図から地層の傾斜を答えたりする、推測する問の正答率が低かった。	・マグマの冷え方とその結果の関係性を確認する。柱状図から地層の状態を推測する活動を取り入れる。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	57.4	55.8	53.5
	読むこと	57.1	56.0	53.8
	書くこと	44.4	45.6	40.9
観点	知識・技能	53.9	54.3	50.2
	思考・判断・表現	45.4	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>正答率が市平均より1.6ポイント、県平均より3.9ポイント上回った。</p> <p>○正しく情報を聞き取り適切に応答する問題や、資料が表す内容を示す英文を正しく選択することができた。</p> <p>●対話文から正確に情報を聞き取る問題の中でも日付や曜日に関する問いの正答率が低く、市平均を下回った。</p>	<p>・授業内の帯活動として日付や曜日を答えたり聞いたりする機会を増やし、日常的に英語に触れる機会を増やしたい。</p>
読むこと	<p>正答率が市平均より1.1ポイント、県平均より3.3ポイント上回った。</p> <p>○英文と共に表やグラフを読み取る問いについては、正答率が全体的に市平均や県平均を上回った。</p> <p>●市や県の平均は上回ったが、正答率はさほど高くない。特にまとまった英文を読んで問いに答える形式は、正答率が極端に低い。</p>	<p>・まとまった英文を読み取ることに慣れていない生徒が多いため、授業内で読み取りの活動を取り入れたい。知名度の高い絵本の英語版などを授業に取り入れ、英文を読むことに対するネガティブな先入観を失くしたいと考えている。また、英語の歌を歌詞カード付きで聴かせることも有効な手立ての一つと考える。</p>
書くこと	<p>正答率が県の平均より3.5ポイント上回ったが、市平均より1.2ポイント下回った。</p> <p>○適切な疑問詞や助動詞を用いて英文を書くことはできる。</p> <p>●三単現のsを付け忘れるというミスが目立った。また、自分の意見をまとまりのある文章で表現する問いに関しては、解答率自体が低い。</p>	<p>・生徒たちにとって使いやすい助動詞を用いた文を書くことから始めて、自分の考えや気持ちを英文で表現することに慣れさせたい。間違いを恐れず書くことを優先して活動し、細かいミスを見逃さずにその都度指摘できるよう、T2と連携して授業を展開する。</p>

宇都宮市立一条中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習について、「家で、学校の宿題をしている。」の質問に「はい」と回答した生徒は85.2%で、県を16.1ポイント上回っている。さらに、「学校の宿題は、自分のためになっている。」の質問に対して「はい」と回答した生徒は60.0%で、県を11.8ポイント上回っている。宿題を含めて、家庭での学習が定着しているとともに生徒の学習への意欲が高まっていることが考えられる。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。」の質問に「はい」と回答した生徒は80.9%で、県を4.1ポイント上回っている。また、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の質問では「はい」と回答した生徒が77.4%で、県を15.6ポイント上回っており、本時の授業において何を学ぶのか、何を理解するのかについてなど明確な目標をもって授業に取り組むことができている。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」の質問に「はい」と回答した生徒は72.2%で、県を2.1ポイント上回っている。困難なことに対しても粘り強く取り組む姿勢が見られる。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている。」の質問に「はい」と回答した生徒は60.9%で、県を7.4ポイント上回っている。また、「家の人と学習について話をしている。」の質問においても「はい」と回答した生徒は60.9%で、県を18.9ポイント上回り、家庭でのコミュニケーションが良好であると考えられる。

●「新聞を読んでいる。」の質問に「ほとんど、または、全く読まない。」と回答した生徒が77.4%で、県に比べると9.0ポイント少ないとはいえ、普段、新聞を読まない傾向にあることが分かる。学級や図書室においてある新聞を積極的に活用し、新聞を読む習慣を身に付けさせていく。

●「誰に対しても、思いやりの心をもって接している。」の質問に「はい」と回答した生徒は50.4%で、県を2.0ポイント下回った。また、「人と話すことは楽しい。」の質問では「はい」と回答した生徒は67.8%で、県を3.4ポイント下回っている。学級活動や道徳、学校行事などを通して、話合いや生徒同士の良さを認め合うような活動を多く取り入れ、互いを尊重し合い、思いやりの心を育てていくとともに、友人とのコミュニケーション能力も高めていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
じっくり考えさせて、深い理解と学び合いを促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いや学び合い、友達と協働して課題に取り組む場の設定 ・1人1台端末の活用、他者との交流など多様な方法を選択し、自分自身による問い直しと組み合わせながら、多面的・多角的な視点による課題帰結ができるよう支援を行う。 ・じっくり考える課題と話合いの視点を与え、学びを深める働きかけをする。 	<p>学ぶことが楽しいと感じている生徒が多く、また、「難しい問題にであうとやる気が出る」と答えている生徒の割合も高い。「授業では発表する機会が与えられ、自分の考えや意見を発表することが得意」と考えている生徒の割合も、市、県より高い。「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と考える生徒の割合も、市、県より高く、88.7%に上る。学習する中で疑問をもち、調べている生徒の割合も、市、県より高い。しかし「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」に対し、肯定回答割合は、市、県とほぼ同じだが自信をもって肯定した生徒の割合がやや低い。「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定割合が、市、県と比べて非常に高いことから、授業の中で、考えるより先に聞いて解決しようとする傾向もあると考えられる。今後はよりじっくりと考える課題を精選し、深い学びにつなげていく。</p>
書かせる指導で学習課題の解決を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力を高める言語活動の充実《思いや考えを書き、発表する。》 ・自分の考えを分かりやすく書かせて考えを整理させる。 ・「～ができた、分かった」などと、自分の言葉で文章表現させる。 	<p>「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」と答えた生徒の割合は、市・県より高いが、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と考えている生徒の割合もやや高い。学力調査では、思考・判断・表現の正答率が市、県より高い教科がほとんどであった。話合いから考えを深め、自分の意見を発表することを得意と感じていることから、文章化する素地はあると考えられるため、自信をもって文章化できるよう、書く活動を今以上に進めていく。</p>

<p>学習課題を達成できたかどうか、生徒に振り返りをさせる。</p>	<p>・進歩状況を自覚する自己評価、友達と良さを分け合う相互評価を工夫する。 ・今後の課題や目標を設定し、見通しや意欲を持たせ、学びに向かう力を育む。 ・身に付けたことを活用し、自力で解決できるよう支援する。</p>	<p>「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」の問いへの肯定回答割合は、市、県と比べても、とても高い。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」についての肯定割合は市より高く、県とほぼ同等である。「数学や理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」と答えた生徒の割合も、市・県より高く、学んだことを活用したいと考えている生徒が多いことが分かった。学習の振り返りにおいて、各自が課題を見つけ、今後の学習や生活に活かしていけるよう指導の工夫を行う。</p>
------------------------------------	--	--